

2015年度企業価値向上表彰 ファイナリストの選定の視点

2015年10月
上場会社表彰選定委員会事務局

上場会社表彰選定委員会では、企業価値を向上させる経営手法は多様であることを十分に認識しつつ、経済付加価値創造の4要素において一般的に「ベストプラクティス」と考えられる取組みに基づいて、ファイナリストの選定を行いました。

選定委員会がファイナリストを選定するにあたり重視した視点は以下のとおりです。

1. 資本コストの算出・認識

企業価値を向上させるための資本政策や投資採択などの経営判断を行うに当たっては、自社の資本コストに係る認識が不可欠であると考えました。

そのため、自社の資本コストの水準を認識していることを選定の必須条件としました。

2. 経営上の枠組みと資本コストを意識した経営の実践

企業価値向上を実現する経営が行われるためには、以下のような経営上の枠組みが導入・整備され、それらの枠組みの中で、自社の資本コストを意識した経営が実践されていることが重要であると考えました。

(1) 経営目標の立案

- ・ 中期経営計画（又はそれに準じる複数年度に渡る計画を含む）が策定されているか
- ・ 資本生産性を意識した経営指標（ROE、ROIC等）が活用されているか
- ・ 自社の最適資本構成のイメージを持ち、それが社内で共有されているか

(2) 経営管理制度の導入・整備

- ・ 新規投資の採択や既存投資からの撤退に係る意思決定を行う際の判断基準が策定されているか
- ・ 投資採択・撤退に係る判断基準に資本コストの概念が組み込まれているか

(3) 評価報酬体系の導入・整備

- ・ 金銭報酬が業績と一定程度連動しているか
- ・ 業績評価に用いる管理指標に資本コストの概念が組み込まれているか

(4) 企業価値向上に向けた啓蒙活動の推進

- ・ 自社の経営目標や資本コストの概念について社内で共有が図られているか（社内研修の実施等）

上記の各項目に関して評価を行ううえでは、例えば「株主から付託された資金に関する収益目標（ROE等）が資本コストの水準を踏まえて設定されているか」や「資本コストを上回るリターンの獲得を目指す投資採択基準が活用されているか」など、投資家から付託された資金を有効に活用する経営態勢が整備・運用されているか否かに着眼して、審議を行いました。

3. その他事項

上記2までの方法に基づいて選抜された上場会社について、企業価値の創出額、過去の業績推移などを総合的に勘案し、ファイナリスト（大賞候補会社）を選定しました。

以 上